

君の知らない物語

「化物語」のED

いつもどおりのある^ひ日の事^{こと}
君は突然^{きみ}立ち上がり^{とつぜんた}言った^あ
「今夜^{こんや}星^{ほし}を見^みに行^ゆこう」

「たまには^い良い^ゆこと言うんだね」
なんてみんなして^い言^わって笑^わった
明^あかりも^{みち}ない道^{みち}を
バカ^あみたいには^{ある}しゃいで歩^{ある}いた
抱^かえ込^こんだ^{ことく}孤独^ふや不安^{あん}に
押^おしつづ^おされないように

真^まっ暗^{くら}な^せ世界^{かい}から^み見^あ上げた
夜^よ空^{そら}は^{ほし}星^ふが降^ふるよう^{よう}で

いつから^{きみ}だろう^{こと}君^{きみ}の事^{こと}を
追^おいかける^{わたし}私^{わたし}がいた
どうか^{ねが}お願い^{ねが}
おどろ^{おどろ}か^きないで聞^きいてよ
私^{わたし}の^{おも}この^{おも}想^{おも}いを

「あれが^{きみ}デネブ^{ゆび}、アル^{なつ}タイル^{だいさんかく}、ベガ」
君^{きみ}は指^{ゆび}さす^{なつ}夏^{なつ}の大^{だい}三角^{さんかく}
覚^{おぼ}えて^{そら}空^{そら}を見^みる
やっ^みと見^みつけた^{おりひめさま}織^{おり}姫^{ひめ}様^{さま}
だけ^{ひこ}ど^{ぼし}どこ^{さま}だろう彦^{ひこ}星^{ぼし}様^{さま}
これ^{ひこ}じゃ^{ぼし}ひとり^{さま}ぼっち

楽^{たの}しげ^{たの}な^{なり}ひと^{きみ}つ隣^{きみ}の君^{きみ}
私^{わたし}は^{なに}何^{なに}も^い言^いえ^いなくて

ほん^{ほん}とう^{とう}本^{きみ}当^{こと}はず^{きみ}と^{こと}君^{きみ}の事^{こと}を

どこかでわかっていた
^み見つかったって
^{とど}届きはしない
だめだよ ^な泣かないで
そう ^い言 ^き聞かせた

^{つよ}強がる ^{わたし}私は ^{おくびょう}臆病で
^{きょうみ}興味がないようなふりをしてた
だけど
^{むね}胸を ^さ刺す ^{いた}痛みは ^ま増してく
ああそうか ^す好きになるって
こういう ^{こと}事なんだね

どうしたい? ^い言 ^いってごらん
^{こころ}心の ^{こえ}声 ^がする
^{きみ}君の ^{となり}隣 ^がいい
^{しんじつ}真実 ^{ざんこく}は残酷だ

^い言 ^いわ ^いな ^いな ^いな ^いな ^いな
^い言 ^いえ ^いな ^いな ^いな ^いな ^いな
^に二 ^ど度 ^もと ^も戻 ^れな ^いい

あの ^{なつ}夏 ^ひの日
きらめく ^{ほし}星
今 ^{いま}でも ^{おも}思 ^だい ^だ出 ^だせ ^だる ^よよ
笑 ^{わら}った ^{かお}顔 ^もも
怒 ^{おこ}った ^{かお}顔 ^もも
^{だいす}大好き ^{でした}でした
おかしいよね
わかってたのに
^{きみ}君 ^しの ^し知 ^らな ^いい
^{わたし}私 ^{ひみつ}だけの秘密

よる こ
夜を越えて
とお おも で きみ
遠い思い出の君が
ゆび
指をさす
む じ ゃ き こえ
無邪気な声で